

## 学 会 記 事

第16回研究報告大会は、1995年11月4日（土）～5日（日）の両日、おだやかな秋日和に恵まれ関西大学で開催された。共通論題は「EU 社会政策の多角的検討」であった。共通論題の部では、超国家企業における勤労者の情報入手・協議権、社会政策へのイギリスの不参加等を中心として、EU のもう一つの、しかし重要な“顔”である Social Europe の諸問題に関する3つの報告が行われ、自由論題の部でも、人の自由移動と欧州市民権、EU 諸国の言語政策をはじめとして、社会、文化の側面で Social Europe の推進に密接な関連を持つ興味深い報告と問題提起が相次いだ。フロアとの質疑応答は活発で、熱のこもったものだったといえる。第1日目の日程終了後、開催校関西大学の御好意により、同大学百周年記念会館で多数の会員が参加して和やかな懇親会が開かれた。

EC の EU への深化発展にともない、本学会の研究課題もますます多様な広がりを見せつつある。このような状況と課題への対応の一つとして、学会誌の充実を図るために、11月4日の理事会で学会誌への執筆要項が決定された（「理事会申し合わせ」）。最も大きなポイントは、政治、経済、法律各分野からそれぞれ2名ずつ編集委員を出し、報告原稿を検討すること、大会報告だけでなく投稿論文も随時掲載していくこと、などであった。しかし本号ではまだ、この申し合わせに厳格に則って編集業務を進めるに至らなかった。今後の改善を期したいと考えている。

### 〔プログラム〕

#### □第1日（11月4日）

午後の部（13時～16時30分） 司会者 山手 治之（京都学園大学）  
澤田 昭夫（日本大学）

- (1) 欧州社会労働憲章 小城 剛 (拓殖大学)
- (2) 超国家的企業における労働者の情報入手権・協議権  
— EU 社会政策の側面— 正井 章彦 (姫路獨協大学)
- (3) EU の社会政策とイギリス 引馬 知子 (日本女子大学)
- (4) 欧州社会憲章とソーシャルパートナー  
中原喜一郎 (東海大学)

総 会 (16時40分～17時)

懇親会 (17時15分～19時15分) 百周年記念会館

□第2日 (11月5日)

午前の部 (10時～12時) 司会者 田中 俊郎 (慶應義塾大学)

- (1) GATT ウルグアイラウンドにおける  
AV「文化特例」をめぐって 三浦 信孝 (中央大学)
- (2) ミッテラン政権の経済政策とフランスの欧州政策  
鈴木 一人 (立命館大学大学院)

昼食休憩 (12時～13時) 理事会 (12時～13時)

総 会 (13時～13時15分)

- 午後の部 (13時15分～16時15分) 司会者 島野 卓爾 (学習院大学)
- (1) 人の自由移動と欧州市民権 南部 朝和 (慶應義塾大学大学院)
- (2) EU と構成国の言語政策  
—多文化主義の可能性の限界— 安江 則子 (立命館大学)
- (3) ドイツの「中核ヨーロッパ」構想と欧州統合の将来  
宮本 光雄 (成蹊大学)